

旧徳山村の思い出を語る3人(右)と大西暢夫さん(後方) 大垣市
室本町、市サイトピアセンター



大垣の写真展で3人が思い出話

エピソード交え 若き日振り返る

三人は同展を開いた同郡池田町出身の写真家大

大垣市室本町の市サイトピアセンターで開催中の写真展「僕の宝物 シンババ徳山村物語」(大西暢夫さんの写真を見る会主催、岐阜新聞・岐阜放送など後援)の会場で二日、徳山ダム建設のため廃村となった旧徳山村(揖斐郡揖斐川町)の旧村民三人を迎えたトークがあり、詰め掛けた約二百人が懐かしい旧村の思い出話に聞き入った。

(堀尚人)

西暢夫さん(三〇)は、を担いで峠を越え、一回りしていた若いころを振り返る。ま市と交流があり、被四十、五十銭の収入を得り「今になってみるとよ写体として出展作品にも登場している。

ママシを持った姿の写真が飾られている小西政治郎さん(八〇)は、妻のさん(七〇)とともに参加。十三歳の時に初めて見たバスに驚いて逃げたエピソードや、迎春準備でトチもちを用意する慣習を紹介した。

今年五月に旧村の門入地区にあった家を取り壊した広瀬ゆきさん(八〇)は、同市文殊は、豊ほどの大きさのあるトチの板

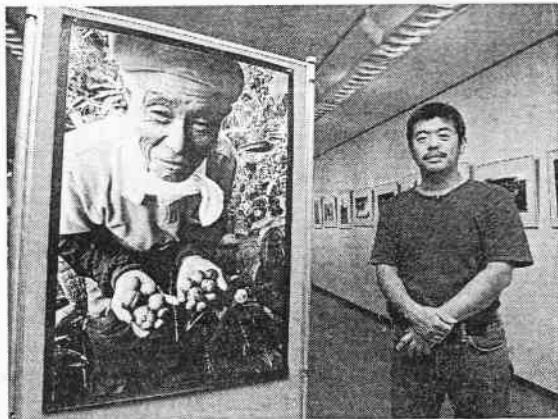
旧徳山村民「古里」語る

くやってみたもんや」と目を細めた。

会場は立ち見が出るほどの盛況に。最後にあいさつした大西さんは「素晴らしい徳山村を消してしまうのは残念。僕たちの世代がダムのこと、徳山村のことをもっと気にしなければ」と呼び掛けていた。写真展は三日まで。

旧徳山の暮らしたどる

地元で初の写真展「僕の宝物 ジジババ徳山村物語」を開いた大西暢夫さん。大垣市室本町、市ストピアセンター



池田町出身の写真家大西さん 大垣市で作品展

徳山ダムに水没する旧徳山村(揖斐郡揖斐川町)で、集団移転後も村に残って生活を続けた元村民

らを十五年余にわたって撮影してきた同郡池田町出身の写真家大西暢夫さん(38)「さいたま市」の写真展「僕の宝物 ジジババ徳山村物語」(大西暢夫さんの写真を見る会主催、岐阜新聞・岐阜放送など後援)が一日、大垣市室本町の市ストピアセンターで始まった。

自然とともに生きてきた元村民の徳山での最後の暮らしを八十二点の写真で紹介している。三日まで。

大西さんが初めて旧徳山村を訪れたのは十五年前。CS放送のドキュメンタリー番組の取材のため「カメラおはあちゃん」で知られた故増山たづ子さんの案内で榎原、戸入地区を訪れたのが最初だった。

トチの実やワラビなど季節ごとの山の恵みを採る姿、日が昇れば起きて夜はろうそくをともし日々の暮らし、清流を手作りの索道で渡る様子。カメラは、村を去るため壊される家を見つめる寂しげな表情まで丹念に追っている。

「徳山村の速度に合わせ、互いに心が許せるまでシャッターは切らない」という撮影スタイルを貫いただけに、写された七世帯十一人の表情はどれも自然。生き生きとした昔ながらの徳山の暮らしぶりを伝えている。写真展は一九九七(平成九)年から全国各地で

開催してきたが、地元では初開催だ。大西さんは「私たちが便利さや安全、快適さを求めた結果、できるのがダム。現代の薄っぺらな暮らしに比べ、はるかに興行きのあるジジババの暮らしを見てもらいたい」と話している。

一日午後二時からは大西さんと元村民によるトークショーも開かれる。

村人の陽気な表情80点

旧徳山村の写真展 大垣・きょうまで



写真展会場に立つ大西さん

徳山ダムの底に沈む村の人々の暮らしを撮り続けてきた写真家大西暢夫さん(38)(池田町出身)の写真展「僕の村の宝物」が大垣市室本町の市ストピアセンターで始まった。来場者は、今月25日から試験湛水が始まり、消えてゆく「徳山村」の、自然の懐に抱かれたかけがえのない生活を感慨深げに見入っていた。きょう3日まで。

大西さんは15年間、東京から旧徳山村にオートバイで通い続け、「じじばば」の生活ぶりを撮影した。展示されているのは、青空のもとでおふろにつかるおばあちゃん、秘密のワサビ畑へと沢を駆け上る女性、マムシを捕るおじいちゃんなど村人の若々しく陽気な表情をとらえた約80点。写真には、「あくやっぱり(こはええな)」「こっちは見たらあかん」などと、気の利いた一言が添えられ、電気や水道がなくても山の満ち足りた生活が伝わってくる。

大西さんは、「村が一つづつされる犠牲の上に、我々の生活が成り立っていることを、写真展をみて感じ取って欲しい」と話している。

大西さんは15年間、東京から旧徳山村にオートバイで通い続け、「じじばば」の生活ぶりを撮影した。展示されているのは、青空のもとでおふろにつかるおばあちゃん、秘密のワサビ畑へと沢を駆け上る女性、マムシを捕るおじいちゃんなど

2006.8.30 水

池田町出身の写真家大西さん

2006.8.30
岐阜

旧徳山村の表情 生き生き

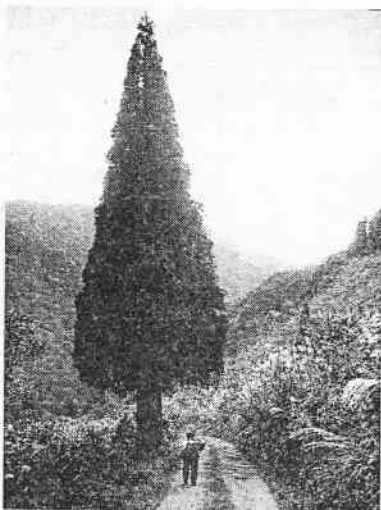
九月下旬に試験たん水町の大垣市スイトピアセ
が始まる徳山ダムに水没
する旧徳山村(揖斐郡揖
斐川町)を、十五年余に
わたって撮影してきた同
心のある揖斐川流域の住
民有志の団体。大西さん
西暢夫さん(三〇〇)さいた
は高校卒業後に横浜市の
ま市IIの写真展「僕の宝
写真専門学校を経て、写
物 シジババ徳山村物
真家の本橋成一氏に師
語」(大西暢夫さんの写
真を見る会主催、岐阜新
聞・岐阜放送後援)が九
月一日から、大垣市室本
の交流の中で、豊かな自

然を敬う村民の暮らしを
撮影してきた。
写真展では、これまで
に撮りためたモノクロを
中心に約八十点を展示。
いずれも全紙サイズで、
旧徳山村と村民を見守り
続けた大西さんの温かな
人柄がにじみ出るような
内容。これまでに撮影し
てきたビデオの上映も行
うほか、二日午後一時か
らはトークショーもあ

宝物、80点展示

1日開幕
大垣で作品展

る。
大西さんは「沈みゆく
旧徳山村に思いをはせて
もらい、ダムや流域につ
いて考えるきっかけにな
れば」と来場を呼び掛け
ている。



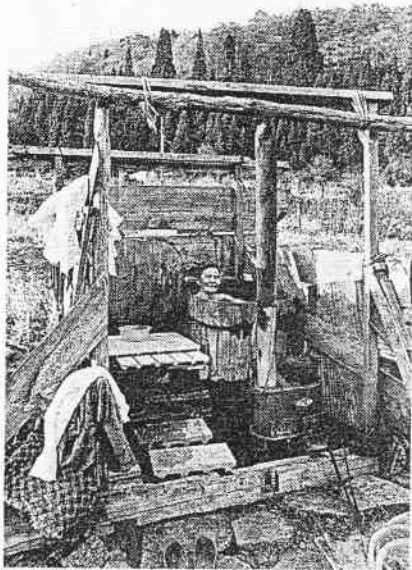
展示される旧徳山村の巨大な杉と村民の写真作品

2006.8.31 中日
ギャラリー
◇大西暢夫写真展 3日
まで、大垣市室本町の市ス
イトピアセンター。「僕の
村の宝物」シジババ徳山物
語」と題して、廃村後の徳
山村に住み続ける「シジバ
バ」の写真作品を中心に展
示。2日後2からは大橋さ
んのトーク会も開催。大西
暢夫さんの写真を見る会主
催。

旧徳山人・暮らし15年追う

この秋、徳山ダム^{たか}の試験湛水の開始で水没する岐阜県の旧徳山村（現揖斐川町）で15年ほど前から、生活風景を撮ってきた写真家の大西暢夫さん（38）＝同県池田町出身＝の写真展「僕の村の宝物」ジジババ徳山村物語」が1日、同県大垣市の市スイトピアセンターで始まる。3日まで。大西さんは「ダムの犠牲になった村の豊かな生活を知ってほしい」と多くの来場を呼びかけている。

大西さんは、駆け出しカメラマンとして東京で修業していた約15年前、故郷に近い旧徳山村を初めて訪れた。すでに廃村となっていた。きょうから大垣で **大西暢夫さん写真展**



風呂に入るおばあちゃん＝岐阜県揖斐川町で、大西暢夫さん提供

「豊かな村、ダムの犠牲に」

外にある木製の風呂に気持ちよさそうにつかたり。水道や電気、電話がなくても笑って暮らしている昔ながらの生活を目の当たりにし、衝撃を受けた。

「当たり前だと思っていた便利な生活のためには、こんな豊かな村の生活が犠牲になる。それを伝えたいと思った」

以来、時間を見つけてはオートバイで東京から旧村へ通い、残って暮らすお年寄りの写真を撮りためた。

今回展示するのは約80点。ワサビ採りのために急ながけを登るおばあさんのたくましい後ろ姿など、「明るい生活ぶり」が感じられる作品を中心に選んだという。

入場無料。2日は午後2時から大西さんのトークショーもある。問い合わせは「大西暢夫さんの写真を見る会」（0584・78・4119）へ。

旧徳山村の人々写真で

池田町出身
大西さん

大垣で力作82点展示

徳山ダム(揖斐川町)で水没する旧徳山村を撮影し続けた、池田町出身の写真家大西暢夫さん(三〇)「さいたま市」の写真展「僕の村の宝物―ジババ徳山村物語」が一日、大垣市のサイトピアセンターで始まった。三日まで。大西さんは横浜市の写真専門学校を卒業後、写真家の本橋成一氏のもとで技術を学んだ。現在はフリーのカメラマンとして、雑誌の連載などで活躍している。

撮りためた写真を、モノクロを中心に八十二点展示した。いずれも全紙サイズ。大西さんは全国のダムに沈む集落などを撮りつづけており、徳山でも村民と家族のように交

流して撮影している。山菜採りをする老夫婦や、木に登りクリを落とすおじいさんなど、いきいきとした表情で生活する様子を撮影した。



力作の写真を紹介する大西さん＝大垣市のサイトピアセンターで

大西さんは「村に対する意識を高め、ダムがで

きる」とはどついうことかを考えるきっかけになれば」と来場を呼びかけている。会場内にはビデオの上映もある。二日の午後二時からは大西さんのトークもあり、ゲストとして村の人も招く予定。

(中平雄大)

地図から消えた徳山村を語る

地図から消えた村・徳山村（現揖斐川町）を15年余にわたって撮り続けている写真家、大西暢夫さん（38）＝池田町出身＝のトークショーが2日、大垣市室本町の市スイトピアセンター・文化会館であった。会場では3日間で開かれている写真展「僕の村の宝物」ジジババ徳山村物語」に合わせ、開催した。

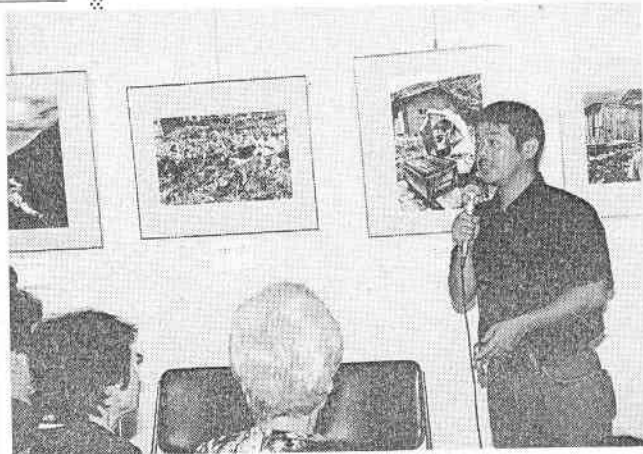
会場には、旧村民も顔を見せ、約200人が聴き入った。大西さんは徳

心に残して

写真家・大西暢夫さん
大垣でトークショー

山村との出会いを紹介した。最後に、大西さん「徳山村のリズムに合わせることで、徳山村のことが冷静に見えるようになった。私のすべての仕事の基盤は徳山村。山奥の人に仕事を教えてもらった」と語った。続いて大西さんの写真の被写体にもなっている旧村民3人が登場。「昔は縄文人みたいな生活をしていました」「17、18歳ころまで車の通る道がなく、峠を歩いて越えた」など昔の懐かしい生活を紹介した。会場には自然とともに

山村との出会いを紹介した。最後に、大西さんは「私たちが便利さや快適さを求めた結果、できるのがダム。縄文時代から続いてきた徳山村を私たちの世代で消してしまうことにしこりが残る。多くの村民が村を出た証しのダムの完成を見ずに亡くなった。ダムのこと、徳山村のことを頭の片隅にでも残しておいてほしい。」



生き続けた旧村民の暮らしを撮影した82点の写真が展示されている。
【子林光和】

「徳山村のことを頭の片隅にでも残しておいてほしい」と語る大西さん＝大垣市スイトピアセンターで

が さわくはのた市のト保煙るプる